所謂「イヌツゲノチタフク尺蠖」に就いて

中 村 正 直

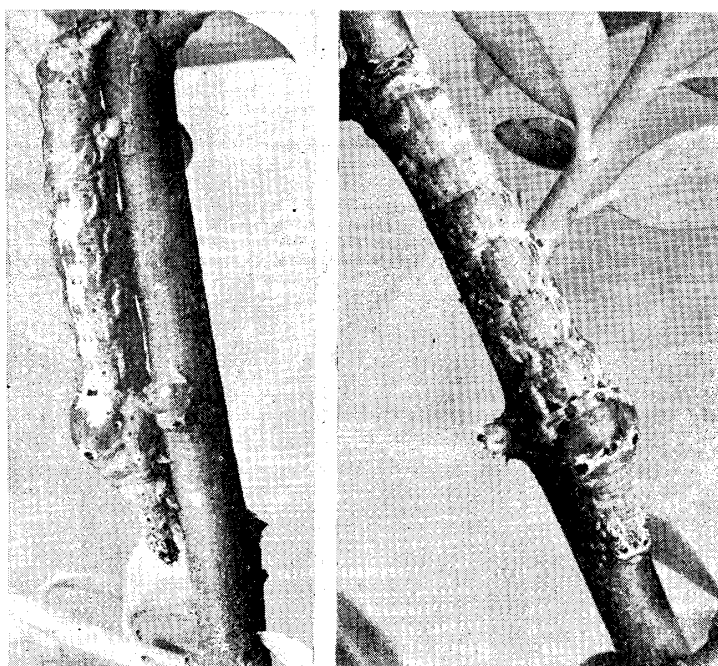
Notes on the "swell inch-worm on *Ilex crenata* THUNB." which was recorded by Dr. T. SASAKI (1899)

BY MASANAO NAKAMURA

故佐々木忠次郎博士の好著「日本樹木害蟲篇」(1899)は信憑性の高い記録として今日でも尚重要な文献の一とされているが，何分にもかなりに古いものであるので其の中には學名の誤認或は不明な種類も少くなく，今日に至るも其の正體の判然としないものもある．此處に記す「イヌツゲノヲタフクシヤクトリムシ」もそれらの中の一であり，幼蟲が甚だ奇異な恰好をしているにも拘らずこれによる被害が輕微な爲か其の後再檢討されたことを聞かない．

私は4，5年前，東京附近の各處に於てイヌツゲより佐々木博士の記載に極めてよく一致する一種の尺蠖を多數見出し，以來毎年飼育を行つて來た．この幼蟲より羽化した蛾は農業技術研究所の河田黨博士によつて*Rhyncho-bapta flaviceps* BUTLER マエキオエダシャク（日本昆蟲圖鑑(1950)，f. 1788）と同定され，こゝに佐々木博士により *Nemoria* sp？イヌツゲノヲタフクシヤクトリガとされたものゝ本體が50年振りに摑めることゝなつたのである．

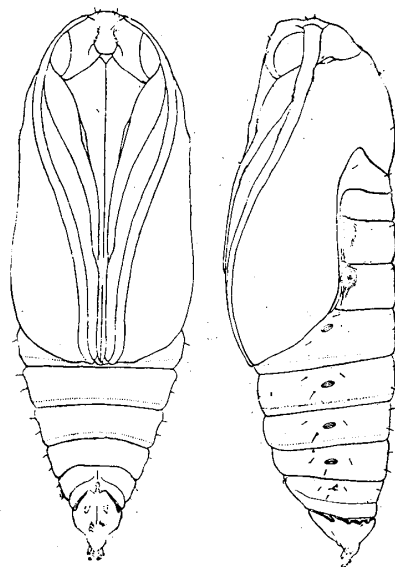
「日本樹木害蟲篇」中の記載（p. 144-146）は次の如くである．

〃幼蟲ハ五月ヨリ出現シ「イヌツゲ」ニ棲息シ其新芽嫩葉等ヲ食トシ六月上旬ヨリ老熟シ幹枝ヲ傳ヘ降リテ土中ニ入リ蛹トナリ六月中旬化シテ蛾トナリ葉枝等ニ産卵ス此卵子ハ同月下旬ニ孵化シ幼蟲トナリ再ビ嫩葉ヲ食トシ七月下旬老熟シ土中ニ入リテ蛹トナリ冬日ヲ經過シ翌年ノ四五月ニ至リ化シテ蛾トナルナリ幼蟲ノ枝葉ニ停マル者ハ時々絲縷ヲ吐キ之ヨリ垂下スルノ特性アリ．

幼蟲ノ老熟セル者ハ長サ八分五厘* アリ體軀ハ圓筒形ヲナシ頭部ハ小形ニシテ灰白ヲ呈シ且黑色ノ小點紋ヲ存ジタリ第三及ビ第四ノ軀節ハ著ク腫起シテ灰白色ヲ呈シ各軀節ノ背腹兩面ハ暗灰色氣門上線ハ黃色氣門線ハ暗灰色ニシテ亞背線ニハ二對ノ黑點氣門上線ニハ一個氣門下線ニハ二個ノ黑點ヲ存ジ且第四，第八及ビ第九ノ軀節ノ腹面ニハ一個ノ大形ノ黑斑ヲ存ジタリ.〃

本種の發生は上記の如く年2回であり，初春のものは4月中旬，同じくイヌツゲを喰う *Nothomiza formosa* Butler マエキトビエダシャクの出現に少しく先んじて發生する．私の觀察では2化期のものは5月中旬より蛹化し其の羽化は6月上旬より始まる．

本種の幼蟲はかなり特徴的なものであり又近く河田博士に依り「日本幼蟲圖鑑」中に收錄されるとも聞いているので此處には單に寫眞を揭げるに止め，前記佐々木博士の記されなかつた蛹の形態に就いて記載しておこうと思う．

蛹の記載

鈍頭紡錘形．少しく光澤を有し，全面に甚だ微小な第2次刺毛を密布する．頭部，口器，胸部，翅及び脚には小皺を有し，可動關節を除く腹部には多くの點刻を散布する．頭頂－前頭接線は存在しない．觸角の基部から幕狀骨の陷入點を經て頭楯基部に至る線は觸角の基部附近では明瞭であるが，他の部分に於いては凹んでいるに過ぎない．滑眼部と粗眼部の境は不明瞭．觸角は細くその先端は翅頂に達し，殆んど下顎と同位置に終る．下唇は小さく，下顎，上唇及び小片に挾まれて略五角形を呈する．小片は不明瞭ながらわづかにこれを區別することを得る．前頭には1對の刺毛を生ずる．前脚は翅頂に到る迄の距離の⅔より少しく長く，その腿節を下顎との間に僅に細く現す．中脚は翅頂より僅か手前に終り，後脚は下腮の下方に極く僅か現れるか又は全く露出しない．後翅は前翅の背緣に沿つて細く現れるが第4腹節上緣に於て前翅下に隱れる．腹部の第1次刺毛はすべて小さい pits より生じているが，第5及び第6腹節氣門下刺毛のみは黑色の小さい chalaza より生ずる．第5腹節の spiracular furrowは存在しない．第8腹節に裝う氣門は退化している．第9，10腹節間にある背溝**は深く4對の裂目を有し溝壁には多數の微小な刺毛を生じている．尾突起は比較的小さく先端には4對の鉤を有するもこの中の1對は他のものに較べ長大である．體長 16mm內外，體幅 3mm內外，色彩は暗褐色，蛹化直後に於いては鮮綠色を呈する．

この小文を爲すに當り蛾の同定をたまわつた河田黨博士，種々御教示に與つた故三橋信治先生，井上寬氏，寫眞撮影の勞をとられた福原義春氏に厚く御禮申し上げる．

Résumé

In present paper, I recorded my breeding result that the so-called "Swell inch-worm on *Ilex crenata* Thumb." which had been described and misplaced in *Nemoria* by late Dr. Tadajiro Sasaki in his "Insects Injurious to Japanese Trees" (1899) was the larva of *Rhynchobapta flaviceps* Butler, and gived a full description on its pupal characters.

---

*　約25mm

** dorsal furrow　(Mosher, 1916)